

アピール

介護保険制度の抜本改善で安全・安心の介護を実現しよう

本日、私たちは「介護を守りたい」「介護職場を生き生きとした職場に取り戻したい」「いい介護がしたい」との思いでこの場に集まりました。

石油や小麦粉など生活関連物資の相次ぐ値上げ、アメリカの大手証券会社の倒産に端を発した金融不安と株価暴落で、国民生活は苦しくなり、不安が増大しています。このような社会の中で要介護者をかかえる家族は、さらなる不安と困難をかかえて生活しています。

集会参加のみなさん。介護・福祉の充実は「安心した老後を送りたい」という全ての国民の願いです。しかし、度重なる介護保険の改悪、介護報酬の切り下げで、今、地域の介護は崩壊の危機に瀕しています。現場のヘルパーさんは、介護への思いや情熱を持ちながらも、報酬の安さ、身分の不安定さから、どうにも生活ができないからと次々と辞めていっています。介護事業者もまた、人手不足が深刻なうえ募集をかけてもヘルパーさんが集まらない、要介護者からのサービスの依頼があっても、断らざるをえない、などの悩みを抱えています。

集会参加のみなさん。厚生労働省の不合理な指導、介護報酬・医療報酬の改悪で、今まで受けることのできたサービスを、受けることが困難になった軽度要介護者がいます。利用料負担に耐えきれず、退所を余儀なくされた老健施設利用者も生まれました。医療度が低いために療養型病床から退院を迫られる患者さん。様々な悲しみをともなって、介護難民、医療難民は生み出され、介護と医療に携わる職員は、やり場のない怒りを心に、仕事を続けています。医療・介護を必要としている方へ、必要な医療・介護が提供されるためには制度の抜本改善が必要です。

「厚生労働省は、私たちの介護の思いを受け止めて欲しい。介護報酬を改善してもらいたい」と多くの介護事業者、労働者、福祉関係者、利用者が今、全国で立ち上がっています。来年春には、介護報酬の改定が予定されています。「安心して老後を送りたい」「もっと心のこもった介護がしたい」こんな願いを実現するために、介護報酬の大幅引き上げと介護保険制度の抜本的な改正を求める運動を、多くの方々と力を合わせて盛り上げていきましょう。

圧倒的な世論の力で、誰もが必要な介護サービスが利用できる「介護の社会化」の実現と、それを支える介護職員が、専門性を高め生き生きと働き続けることのできる環境整備を勝ち取りましょう。

2008年10月12日